

第98回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(愛媛)

四国本部 事業委員会副委員長
正岡 久典
Masaoka Hisanori



1. セミナーの概要

2024年12月7日(土)に、松山市「えひめ共済会館」において、第98回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーおよび懇親会を開催いたしました。

表1 プログラム

1. 開会挨拶(13:00~13:10)

(公社) 日本技術士会四国本部
副本部長 須賀 幸一

2. CPDセミナー(13:10~14:10)

演題:『最近の地震活動から学ぶ教訓と次の大地震への備え』
講師:愛媛大学大学院理工学研究科 社会インフラメンテナンス工学講座
特定教授 森 伸一郎 氏

3. 公開講座(14:25~15:25)

演題:『愛媛の近代化遺産を歩く』
講師:今治明德短期大学 ライフデザイン学科
講師 大成 経凡 氏

4. 防災セミナー(15:40~16:40)

演題:『過去の大規模災害に学ぶー愛媛の地震・津波・水害・土砂災害史ー』
講師:愛媛大学地域協働推進機構
特定准教授 大本 敬久 氏

5. 懇親会(17:30~19:30)

- (1)開会挨拶 四国本部広報委員長 岩佐 隆
- (2)乾杯 四国本部事業委員 松村 法行
- (3)中締め 四国本部幹事 吉村 和司

セミナーは、会場参加38名(Web参加8名)・懇親会29名のご参加を頂きました。



写真1 セミナー会場の様子



写真2 須賀副本部長の開会挨拶

2 CPD セミナー 森 伸一郎氏

CPDセミナーは、愛媛大学理工学研究科 社会インフラメンテナンス工学講座 森 伸一郎氏より、最近の地震活動から学ぶ教訓と次の大地震への備えについてご講演を頂きました。

近年の地震の中で、複数の断層セグメントが連動して動き、想定していない被害が発生している事例についてお話がありました。

2024年能登半島地震では、3つの活断層セグメントが動いたことで、建物被害がより増大しているとの説明があり、被害状況とメカニズムについて現地調査写真を交えて詳しくご説明を頂きました。

また2023年に発生したトルコ・シリア地震についても、先生は5回現地調査に向かわれたとのことと詳しくご説明を頂きました。

この地震は2つの地震により400kmに渡り活断層地震の連動が発生したもので、23万棟もの被害が発生したとのこと。また、各々の断層セグメントの地震想定はあったが、連動までは想定されていなかったとのことでした。

これらの教訓から、愛媛においても「中央構造線断層帯の連鎖」が連動地震として考えられ、もし発生した場合は南海トラフ地震による地震被害想定をも超える可能性があり、そのリスクを考慮しておく必要があるのではないかとのお話でした。

加えて地震災害としては、現在津波被害に注目が集まっているが、連動地震による複数回の強震動による倒壊被害も甚大であり、インフラのメンテナンスにも目を向けておく必要があるとのことでした。

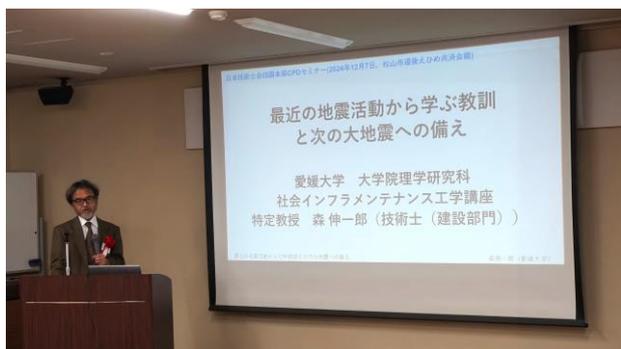


写真3 森氏の講演

3 公開講座 大成 経凡氏

引き続き公開講座は、今治明德短期大学 ライフデザイン学科 大成 経凡氏より愛媛の近代化遺産についてご講演を頂きました。

近代化遺産はペリー来航の開国に始まる社会文化遺産とのことですが、本公開講座では海外からの文化建築における様々な変化を、実例を交えながらご紹介して頂きました。

愛媛県では、H13より大成先生もご参加されて、PRや街づくりに活用する目的で県下の近代化遺産の調査が行われたそうです。

その中の県内に残る代表的な近代化遺産についてのご紹介がありました。

先ず西予市にあるアーチ型窓やガラスを使用した擬洋風建築である「開明学校校舎」の説明がありました。

次に、明治6年に愛媛県で最初の洋風建築である「釣島灯台」についてご説明がありました。

ブラントンにより設計された釣島灯台の、当時輸入されたドーム型灯籠の構造や、石造り官舎の間取りについて写真を交えて詳しい説明がありました。

官舎の建築に使用された石は2種類あり、青みがかった石は山口県徳山石、赤みがかった石は広島県倉橋島だとのこと。

その他「旧石崎船渠合資会社の石垣ドライドック」、今治市小島に築かれた「陸軍芸予要塞」についての説明を頂きました。



写真4 大成氏の講演

4 防災セミナー 大本 敬久氏

防災セミナーは、愛媛大学地域協働推進機構 大本 敬久氏より過去の愛媛の過去の地震・津波・水害・土砂災害等の大規模災害からの学びについてご講演を頂きました。

南海トラフ地震は過去100~150年毎に発生しており、各時代の地震描写記録・文献等から読み取れる被災場所・被害状況等を、具体的な資料を交えて詳しくご説明して頂きました。

宝永南海地震や昭和南海地震では当時記録より道後温泉の湯が出なくなったなど、今後の南海地震においても同じような被害が出るのではないかとのお話でした。

次に愛媛の水害についてもお話があり、昭和18年に発生した豪雨は平成30年豪雨の1.5倍の降水量であり、当時の水害について国土地理院の資料（治水地形分類図や空中写真）との対比を交えて説明頂きました。

これは高々80年くらい前の話であり、決して稀有

な話ではないとのことです。

また、過去の大規模災害の復興においては各地に復興記念碑や被災者の招魂碑が残っており、国土地理院の自然災害伝承碑として登録が進められているとのことです。

しかし、碑文の消えかかったものもあり、単に自然災害伝承碑を登録するだけではなく、歴史から学ぶためにも啓蒙活動が必要とのお話がありました。



写真5 大本氏の講演



写真7 懇親会の様子



写真8 中締め挨拶

5 懇親会

セミナー後、懇親会が開催されました。

四国本部 岩佐広報委員長の開会挨拶、四国本部 松村事業委員の乾杯の音頭で始まり、約2時間の歓談の後、四国本部 吉村幹事の中締め挨拶で閉会しました。



写真6 懇親会開会挨拶